

パンパスグラス

昨年から本校の正門前に毎朝立って、生徒諸君に挨拶をしています。その際にとっても気になる植物がありました。そして先日、市内の園芸用品店の店先でその植物を偶然見つけました。そこはガーデニング用の花の苗や球根、果樹の苗木などが置いてあるコーナーで、鉢植えの大きな観賞用植物がその脇に10鉢ほど、片隅に寄せて置いてありました。その鉢植えの中に例の気になる植物がありました。

そこで初めてその植物の名前を知りました。付けてあった値段表示の紙には、「パンパスグラス」と名前が書いてありました。何となくその名前の音感に親しみを感じ、不思議に印象に残りました。人の背丈以上の高さで大きさを、巨大ススキのような特徴的な穂の形に、パンパスグラスはその明確な存在感を誇示していました。

その後いろいろ調べてみると、パンパスグラスは南アメリカ原産のイネ科の多年草で、背が高いものは3m程にもなるとか。花の穂は密生したふわふわの銀白色の毛で、その姿から和名をシロガネヨシ（白銀葦）と言われていることも分かりました。通常では大きな庭園や公園などに観賞用として植えられますが、花の穂が開く前に切り取り、ドライフラワーや生け花として利用されることもあると聞きました。完全な外来種ですが、日本への由来は意外に古く今から100年以上も前、日本には明治時代の中頃に観賞用として渡来したそうです。ちょうど日本のブラジル移民が始まった頃でしょうか。

1年以上の長い間、何となく気になっていた事が、やっと解決してスッキリしました。遠い南米のアルゼンチンやブラジルの、広大な草原に自生していたパンパスグラスが、縁あって地球の反対側の日本で、逞しく根を張りしっかりと生きていることは、まさに今の時代のグローバリズムを思い起こさせました。

東高生の皆さんは、国際化が加速する21世紀に生きる人々です。パンパスグラスのように地味で華やかさがなくても、その個性的でインパクトのある存在感、揺るぎない着実な根張り、細く繊細な葉の柔軟さ、そしてどこにでも適応できる生命力の逞しさを、是非とも見習って自分の中に取り入れてください。東日本大震災を乗り越えて復興に向かう新しい日本の未来を、若さ溢れるパワーと強い意志で、積極的に担っていただきたいと切に願っています。

10月20日

大垣東高等学校長 浅野裕司



『パンパスグラス』